

伊藤 裕先生が糖尿病・内分泌連携セミナーにご登壇

『WITH コロナ時代のメタボリックドミノ医療の New Normal』

病院長 村上円人

12月15日、メタボリックドミノの提唱者である慶應義塾大学医学部・腎臓内分泌代謝内科教授 伊藤裕先生が、当院でのハイブリッド講演会にご登壇なさいました。オンラインでは、多数の先生方にご参加いただきました。

前半は、新型コロナウイルス感染症が運動不足や過食をもたらすだけでなく、ホルモン系も狂わせて、メタボリック症候群が増悪しているお話。人間とは、人の間と書き、間を繋ぐ存在であり、五感で繋がっております。新型コロナウイルス感染症はこの五感のうち、味覚、嗅覚、触覚を障害し、人間の本来の生活を脅かし、ホルモン系にも支障を来します。触覚は幸せホルモンのオキシトシンを分泌させます。今のAI時代に必要なのは、ロボットを用いることによる触れ合い、触覚の刺激であり、それがオキシトシンを刺激し、emotional reality（空気感）をもたらす、それがNew Normalであるという科学的、哲学的、社会的なメッセージでした。

後半は「腎臓と腸管の臓器連関」研究のパイオニアとして、腸内細菌に関する最近の研究室の成績など、大変示唆に富む、蘊蓄のあるすばらしい内容でした。

